

## ● 「札幌版次世代住宅基準」の策定について

札幌市では、平成23年3月に策定した「札幌市温暖化対策推進ビジョン」の中期目標達成のための10のアクションの一つとして位置付けている、札幌市独自の高断熱・高気密住宅の基準「札幌版次世代住宅基準」を策定しました。

これは、積雪寒冷地という地域特性に応じた温暖化対策の一環として、家庭部門から排出されるCO<sub>2</sub>のうち、特に大きな割合を占める、暖房エネルギーの消費による排出を抑制しようと定めたものです。

平成11年に国で定められた次世代省エネルギー基準相当を最低の等級とし、そこから新築住宅で5段階、改修住宅で3段階の等級を設定しており、現時点の国内における最高水準の基準となります。

平成24年度から事業を開始し、補助制度などにより札幌版次世代住宅の普及を進めることで、平成32年までに、平成19年比で29万トンのCO<sub>2</sub>削減を目指します。

### 1 基準策定の背景と目的

#### (1) 背景

- ① 札幌市は積雪寒冷地であり、全国平均と比べて家庭から排出されるCO<sub>2</sub>の割合が高く、その多くは暖房エネルギーに起因するものです。「札幌市温暖化対策推進ビジョン」では、札幌版次世代住宅の普及を中期目標達成のための10のアクションの一つに位置付けています。
- ② 国が、平成11年に次世代省エネルギー基準で住宅の断熱性能等を定めていますが、寒冷地である札幌ではさらなる住宅の高断熱化・高気密化が求められています。
- ③ 海外では、暖房エネルギーをほとんど必要としないパッシブハウスの普及が進んでいます。

#### (2) 目的

先導的な札幌市独自の高断熱・高気密住宅の基準を定め、札幌版次世代住宅の普及を進めることにより、平成32年までに、平成19年比で29万トンのCO<sub>2</sub>削減を目指します。

### 2 基準の検討体制

基準の策定に当たっては、平成22年度に有識者による技術検討会議を開催し、検討を重ね、平成23年3月30日に提言を受けています。

### 3 基準の概要

#### (1) 性能評価の対象住戸

一戸建て住宅および共同住宅（木造、鉄骨造、RC造、ブロック造）

#### (2) 評価基準

等級は断熱性能（熱損失係数:Q値<sup>※1</sup>）と気密性能（相当隙間面積:C値<sup>※2</sup>）で評価します。新築については、パッシブハウスに相当するトップランナーから、国の基準より2割程度エネルギー消費を削減できるベーシックレベルまでの4段階を独自基準としています。

※1 断熱性能の指標で、建物の内部と外部の温度差を1℃としたとき、建物内部から外界に逃げる時間当たりの熱量を床面積で割った値です。Q値が小さいほど断熱性能が良い住宅です。

※2 気密性能の指標で、「床面積1㎡当たりの隙間量を㎤で表したもの」です。C値が小さいほど気密性が高いことを示しています。なお、国の次世代省エネルギー基準では、平成21年の改正からC値の基準は削除されています。

●新築基準

等級	Q 値 [W / (m <sup>2</sup> ・K) ]	C 値 [cm <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> ]
トップランナー	0.5 以下	0.5 以下
ハイレベル	0.7 以下	0.7 以下
スタンダードレベル	1.0 以下	1.0 以下
ベーシックレベル	1.3 以下	1.0 以下
ミニマムレベル	1.6 以下	2.0 以下

●改修基準

等級	Q 値 [W / (m <sup>2</sup> ・K) ]	C 値 [cm <sup>3</sup> / m <sup>2</sup> ]
ハイレベル	0.7 以下	2.0 以下
スタンダードレベル	1.0 以下	2.0 以下
ベーシックレベル	1.3 以下	2.0 を超え 5.0 以下

#### 4 表示制度（ラベリング制度）

市が認定する札幌版次世代住宅には、住宅性能を表示する性能表示ラベル（金属製プレート）と評価書（性能保存シート）を交付し、住宅性能の見える化や住宅の資産価値の向上、品質の明確化を図ります。

なお、札幌版次世代住宅の愛称を「SAPPORO ECO-E HOUSE」として、ロゴマークとコミュニケーションマークを作成し、ロゴマークは性能表示ラベル等に、コミュニケーションマークは評価書等に使用。ロゴマークは、断熱材の厚みをイメージしたデザインとしています。

これらのデザインは、札幌市立大学デザイン学部に依頼し、市内工務店等にヒアリングを実施した上で作成しました。

また、今後は、これらのマークを、認定住宅を販売する事業者にも使用してもらうなど、札幌版次世代住宅の普及に活用していきます。



性能表示ラベル（ロゴマーク入り）  
（左；トップランナー、右；トップランナー以外）



コミュニケーションマーク  
（パンフレット等に利用）

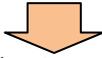
#### 5 普及促進事業

札幌版次世代住宅基準の普及促進のため、平成 24 年度から補助制度を開始する予定です。

## 6 札幌市温暖化対策推進ビジョンにおける位置付け

### ●札幌市温暖化対策推進ビジョンの中期目標

平成 19 年（2007 年）の温室効果ガス排出量 1208 万 t-CO<sub>2</sub> から 42%削減



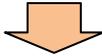
温室効果ガス削減目標：507 万 t-CO<sub>2</sub>

※ うち 10 のアクションによる削減目標 340 万 t-CO<sub>2</sub>

### ●札幌市温暖化対策推進ビジョンにおける位置付け

◇札幌版次世代住宅基準が普及し、新築戸建住宅の 100%がその基準を達成

◇住宅のおよそ 30%が国の次世代（1999（平成 11 年））基準を達成



平成 32 年（2020 年）に平成 19 年比で 29 万 t-CO<sub>2</sub> 削減

※ 札幌版次世代住宅基準の普及により、市全体の CO<sub>2</sub> 削減目標の約 6%を削減

※ 10 のアクションによる削減目標の約 9%を削減

### 普及シナリオ

単位：%（既築住宅のうち、それぞれの基準を満たす住宅の割合）

		2007（平成 19）年	2020（平成 32）年
既築住宅	国の旧基準(1980, S55)以前	65.0%	32.8%
	国の新基準(1992, H4)	25.4%	33.5%
	国の次世代基準(1999, H11)	9.7%	27.5%
	札幌版次世代住宅基準	0%	6.3%

※ 各年における住宅戸数割合で CO<sub>2</sub> 排出量を求め、その差から 29 万 t-CO<sub>2</sub> を算出

## 7 その他

### (1) 札幌版次世代住宅基準の事業者向け説明会

日時：平成 24 年 3 月 7 日（水）1 回目 14：30～15：30（受付 14：00 から）

2 回目 15：45～16：45（受付 15：30 から）

場所：市本庁舎 12 階会議室（定員各 200 人）

参加方法：ホームページ（<http://www.city.sapporo.jp/toshi/kenchiku/oshirase/jisedaisetumeikai.html>）から申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、建築企画課へ送付（ファクス：218-5142、E メール：kenchiku.kikaku@city.sapporo.jp）。

### (2) 札幌版次世代住宅基準の詳細については、ホームページから閲覧できます。

（<http://www.city.sapporo.jp/toshi/kenchiku/jisedaikiyun>）

問い合わせ先

都市局建築部建築企画課 大場・畑澤

電話：211-2816